

地域で支持される同窓会へ

●第3回 地域職域同窓会責任者会議

先週の週末は、同窓会と仕事の新年会のダブルヘッダーでした。5日の土曜日が午後1時から「浦高同窓会／第3回 地域職域同窓会責任者会議」(北浦和)に出席し、午後6時から鬼怒川で「豊野工業地協同組合・賀詞交歓会」があり、4時半に市長車に同乗させていただき懇親会に出席し、食事と御酒をいただいて午後10時過ぎに戻りました。翌6日(日曜日)は、朝10時から道の駅庄和で草津市観光公社を迎えたイベントに参加し、午後3時から「庄和商工会50周年記念式典」に出席し、午後5時から「春日部地区浦高会・賀詞交歓会」に出席するというハードなスケジュールでした。本来であれば出席する会合を一本に絞りたいのですが、浮世の義理もありなかなかうまく調整ができませんでした。

そんな中でさまざまな収穫がありました。特に、

「浦高同窓会／第3回 地域職域同窓会責任者会議」【写真①】では、他地域の同窓会活動の状況を伺い、



これからの活動へのヒントをいただいております。そんな会議の記録をまとめておきましょう。

＊

【開会】小室正人副会長(19期) 13:00

皆さん、こんにちは。今回は3回目となった地域職域同窓会責任者会議です。同窓会の発展は、皆様の個々の地域や職域同窓会の発展なくしてはありませぬ。ぜひ、熱心で活発な議論ができますことをお願いし開会の挨拶とします。

【挨拶】川野幸夫会長(13期)

各地域・職域同窓会の皆様には、日頃から活発に活動を行っていただき感謝申し上げます。私も会長に就任以来、各地域の総会等に出席させていただき、皆様の素晴らしい活動に触れてまいりました。現在、浦高では関根校長先生の下「三兎を追え」という校風が育っています。学業、8割以上の生徒が参加しているクラブ活動、さらに学校行事です。まさに「尚文昌武」の精神が実践されているものと感謝いたします。今後の日本再生には、教育しかないと思います。前島前校長から引き継いだ「天下の浦高復活」の精神が関根校長の下で着実に積み上げられており、私達同窓会もしっかりバックアップしてまいりますので、皆様よろしく願いいたします。

【挨拶】関根郁夫校長

センター試験では全体で40点上がりましたが、2次試験で合格者数が出てから評価いただけることとなります。部活では引退する時に表彰式を行っておりますが、89%の生徒を表彰することができました。学校行事の最後にラグビー大会を行っているのですが、試験前の3年生も真剣にチャレンジしてくれており、練習では救急車を2度も呼ぶ状況でした。この学校運営では嬉しい悲鳴をあげています。

高校のあり方については、先日、日本経済新聞に原稿を出させていただきましたが、浦高の宣伝も多少入れさせていただけたと思います。いろいろなどころから反響がありました。実際AFSからの留学生を受け入れるにあたっては、帰国時に日本語を流暢に話せるまでの教育をしたいと思っています。また、東大との連携による指導綱領作成、哲学セミナーなど、これからの教育のあり方を模索しています。10年前に「浦高新世紀構想」が出され、現在、その総括も行っております。課題を整理し、評価を行った上で、新しい情報発信をしていきたいと考えています。私も就任2年目が終わろうとしています。来年度は外に向けてアピールをしていきたいと思っています。同窓会の皆様には、今後とも物心の両面からご支援をお願いいたします。

＊

●それぞれの地域性・個性が・・・!

ここから21の地域・職域同窓会からの報告が始まりました。各地域からの報告をご紹介します。

戸田麗和会・長谷川会長(10期)「浦高ボート部の応援のために『幟』を作り、戸田ボート場で応援しています。日本人の人材育成においては、未知の領域への切り込みということが大切と考えています。そんな教育改革を進めていただきたい!」

県庁麗和会・後閑会長(21期)「県庁麗和会は、平成元年に設立し、現在は426名の会員がおり、毎年1回の総会を行い、会員相互の親睦を行っていますが、今後は同窓会の役割の認識、若い人達の参加促進、教育関係者の名簿の整理などを考えています。」

浦和麗和会・星野会長(4期)「15年目を迎えて、浦高で学んだことを地域にどう還元していくかという事を考えています。」**高柳幹事長(22期)**「昨年3点変更しました。会則を改正し事務局長を幹事長とし、会員も参加意思を再確認しています。さらに若い世代への浸透拡大を考えています。」

東京浦高会・石川会長(15期)「本部同窓会が縦のラインを繋ぐ役割だとすると、東京浦高会は横の繋がりを強くする役割だと思います。東京浦高会には、地域同窓会にも参加している人たちが所属し、情報交換の場として活用してもらっています。」



【写真②：東京浦高会の石川さんの報告風景】

＊

古河麗和会・長島会長(19期)

「古河は絶

滅危惧種になりつつあります。23期以降は、古河から浦高に通学することができず、浦高との絆が古河競歩大会だけになっています。道州制になり、古河から浦高への道が繋がることを期待しています。総会では地元小説家からの『古河の話』、郷土史家からの『関東の隠れキリシタン』、剣豪の『日本刀等の展示・説明』、川野会長からの『ヤオコーの商い』などの講演をいただいています。」

西部浦高会・大塚会長(19期)「今年で7年目になり、9月の第一日曜日に総会を行っています。私事ですが、同期で川越線浦高会というのを行い、新しい輪もできました。一女にも声を掛けようか・という話も出たのですが、相手が60過ぎでは・・。」

「・・お互い様ではないのでしょうか」との声も(˘˘;)

志木麗和会・深瀬会長(15期)「昨年、役員の世界交代があり若返りました。会員は100名近くいるのですが、総会参加者が10名程度で情報交換を行っています。」

久喜麗和会・榎本会長(5期)「昨年、菖蒲町、鷲宮町、栗橋町と合併して15万7千人の市になりました。これをきっかけとして、同窓会の拡大を図っています。」**島田事務局長(19期)**「浦高百年の森づくりでは間伐に参加しており、創立10周年を記念して春日部地区のように杜づくりを進めたい。」

秩父浦中浦高会・志村代表幹事(11期)「私達の地区も絶滅危惧種かもしれませんが、先輩たちがお元気です。設立は昭和30年と一番古い同窓会と自負し、2年に1度の総会を行っています。」

大宮浦高会・新藤会長(3期)「総会には100名近くの方が参加してくれます。会員の皆さんにたくさん出いただく工夫として、大宮芸者の手踊りなど趣向を変えた出し物を考えています。特別活動としては、日本フィルハーモニー交響楽団の第九演奏会に今村副会長と原田常任理事の2人が参加した。」**今村副会長(13期)**「地域への貢献として、新藤会長が大宮郷土史研究会で『大宮の歴史』を講演し、200名を超える方々に生きた歴史を語られた。」

上尾麗和会・野川副会長(5期)「活動は年1回の飲み会でマンネリ化している。今年は名簿の整理を行い、若い人たちとも連絡をとりたい。私もさまざまな事で浦高ブランドの恩恵を受けてきており、現役世代の活躍などを情報発信していきたい。」

春日部地区浦高会・三輪会長(15期)「昨年9月から10年目の活動に入り、記念事業として小室副会長のご支援をいただき『春日部麗しの杜づくり』をスタートさせることができました。私たちの特徴は、春日部市だけでなく周辺の野田市や越谷市なども含めた地域同窓会であることと、幹事が若いことです。」

北本支部・金沢事務局(43期)「現役の大學生の参加もあり、毎回賑わっています。会員獲得のために、町名毎の名簿を作成し勧誘を行いました。」

与野支部・池上支部長(7期)「地域貢献イベントを行っており、9月に『与野若い芽のコンサート』を開催し300人近くの人達に楽しんでいただいた。」

大成建設浦高会・清水会長(19期)「かつては60名近くの浦高卒業生が居ましたが、今は数年に1名が入る状況で、社内の人を知る活動になっています。」

川口麗和会・吉田副会長(10期)「同期で麗和会館に彫像を贈りました。10月にプロの造園屋が作るオープン・ガーデンを行い好評でした。」

蕨麗和会・佐藤会長(6期)「若返りが最大の課題です。地域別に声掛けを行い、年3人の増加を目標としています。」

関西浦高会・岩崎会長(11期)「近畿2府4県を対象としています。関西でも浦高の名は通っています。各地域の報告を聞いていて素晴らしいと感じました。現在は文化活動を検討しています。」

蓮田岩槻浦高会・三浦会長(9期)「10周年を迎えます。昨年は古河マラソンで旗を作って応援しましたが、在校生たちはピンとこなかったようです。今後は白岡地区にも声を掛けようと思っています。」

霞ヶ関麗和会・池田事務局(43期)「霞ヶ関官庁街に勤務する浦高出身者の会です。各省庁からの参加者があり、いろいろな関係が広がっています。」

和光麗和会・増田事務局(21期)「毎年1回の総会と懇親会を行っています。何か活動をとりたいながらもできずにいます。」

＊

●同窓生はもちろん、地域で支持される活動を！

21の地域職域同窓会から報告がありました。この他に「九州浦中浦高会」「湘南浦中浦高会」があり、23の地域職域同窓会がありますが、どこも若い人たちの参加に苦慮しているようです。

80代から20代まで4世代が同居する同窓会、学生時代の環境も、卒業後の生活観・価値観が異なる中で、多くを期待することは難しいと思います。私自身も「浦高出身者で・・」と言えるようになったのは、ここ10年余りのことです。地域で同窓会が社会貢献活動などしっかりとした活動や、楽しい活動をしていなくては、参加しようと思ってくれる人たちも出てこないことでしょう。これからも、自己満足で終わらず、多くの同窓生や地域の人々に支持される活動をしていこうと強く心に刻みました。